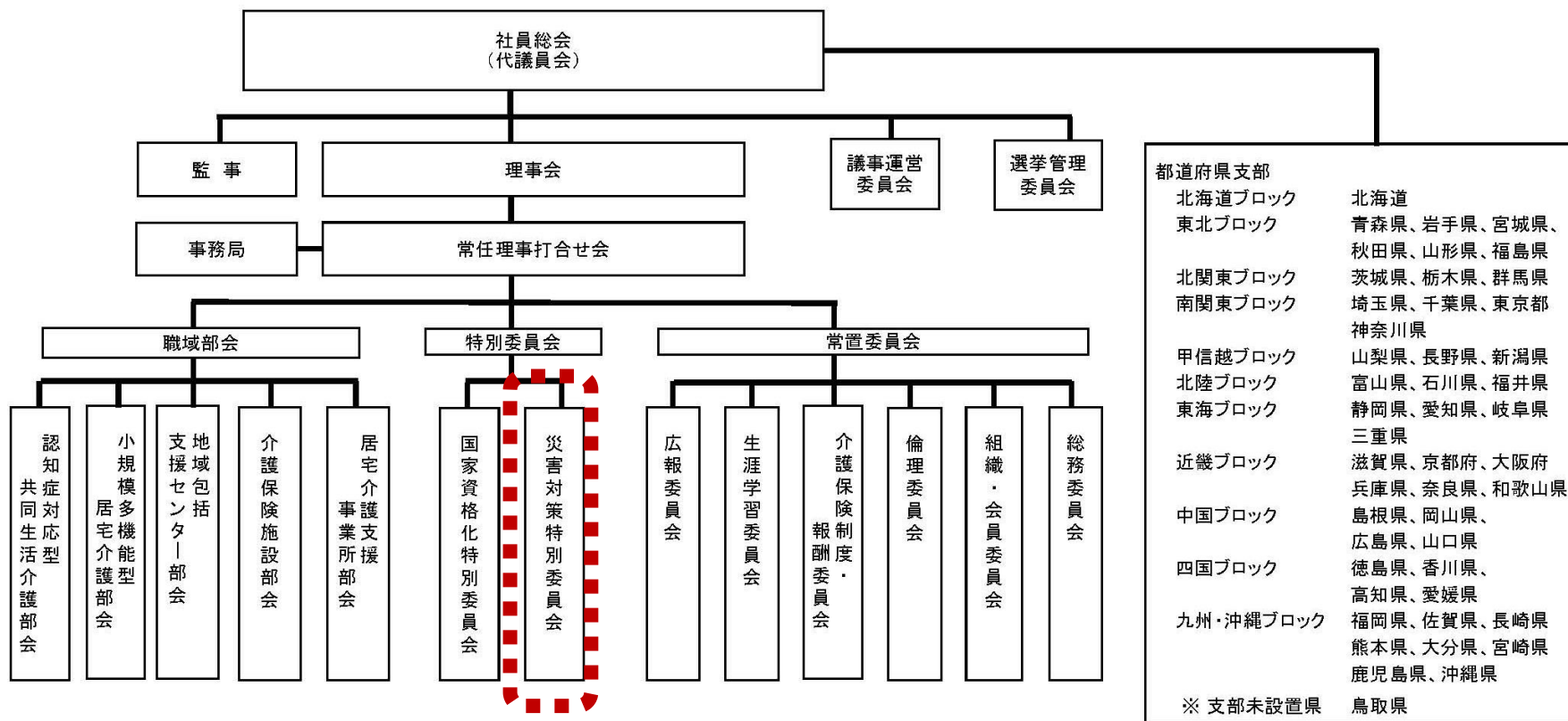


日本介護支援専門員協会の 災害支援活動 ～協会の全般的取り組み～

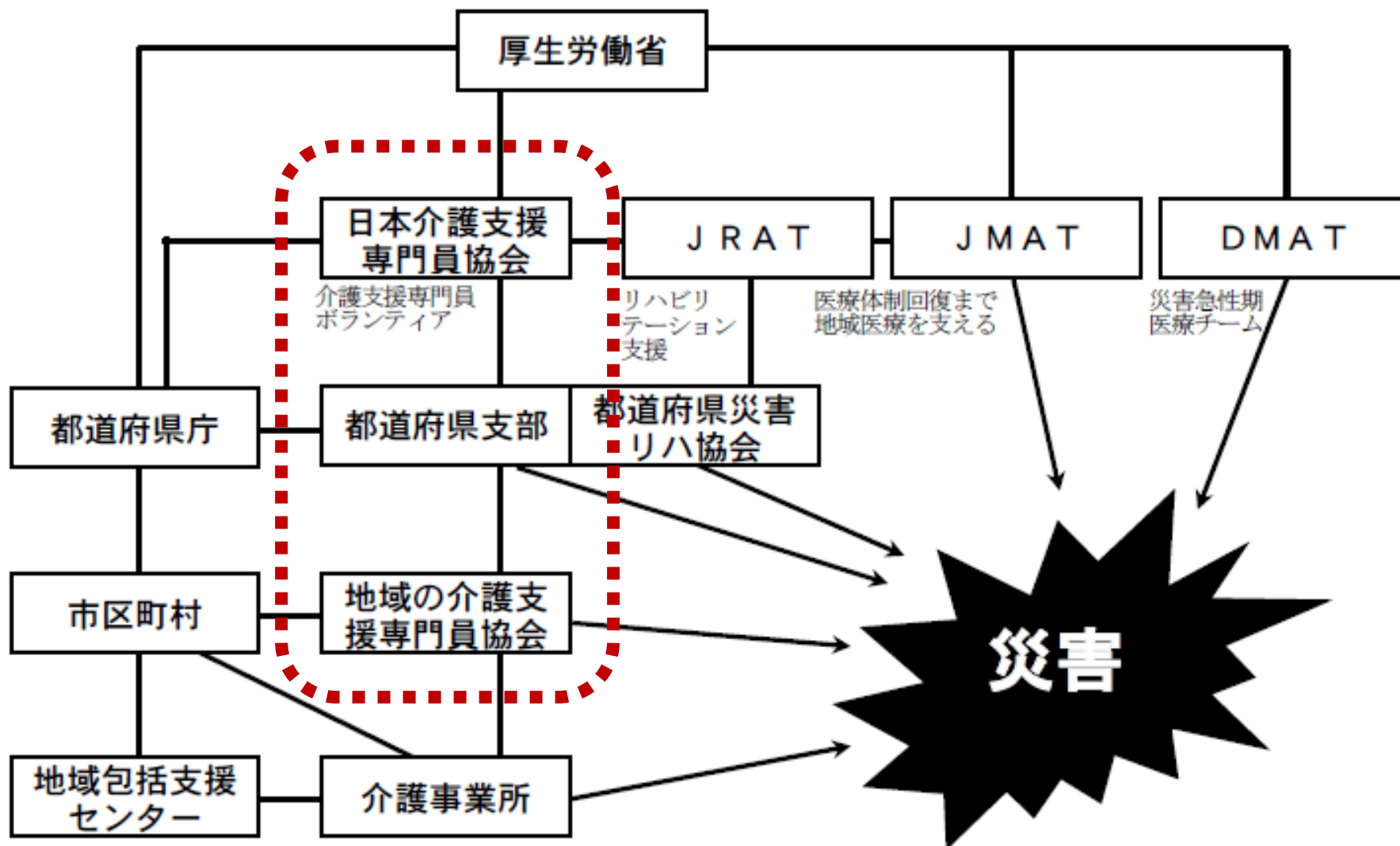


一般社団法人 日本介護支援専門員協会
常任理事 坪根 雅子

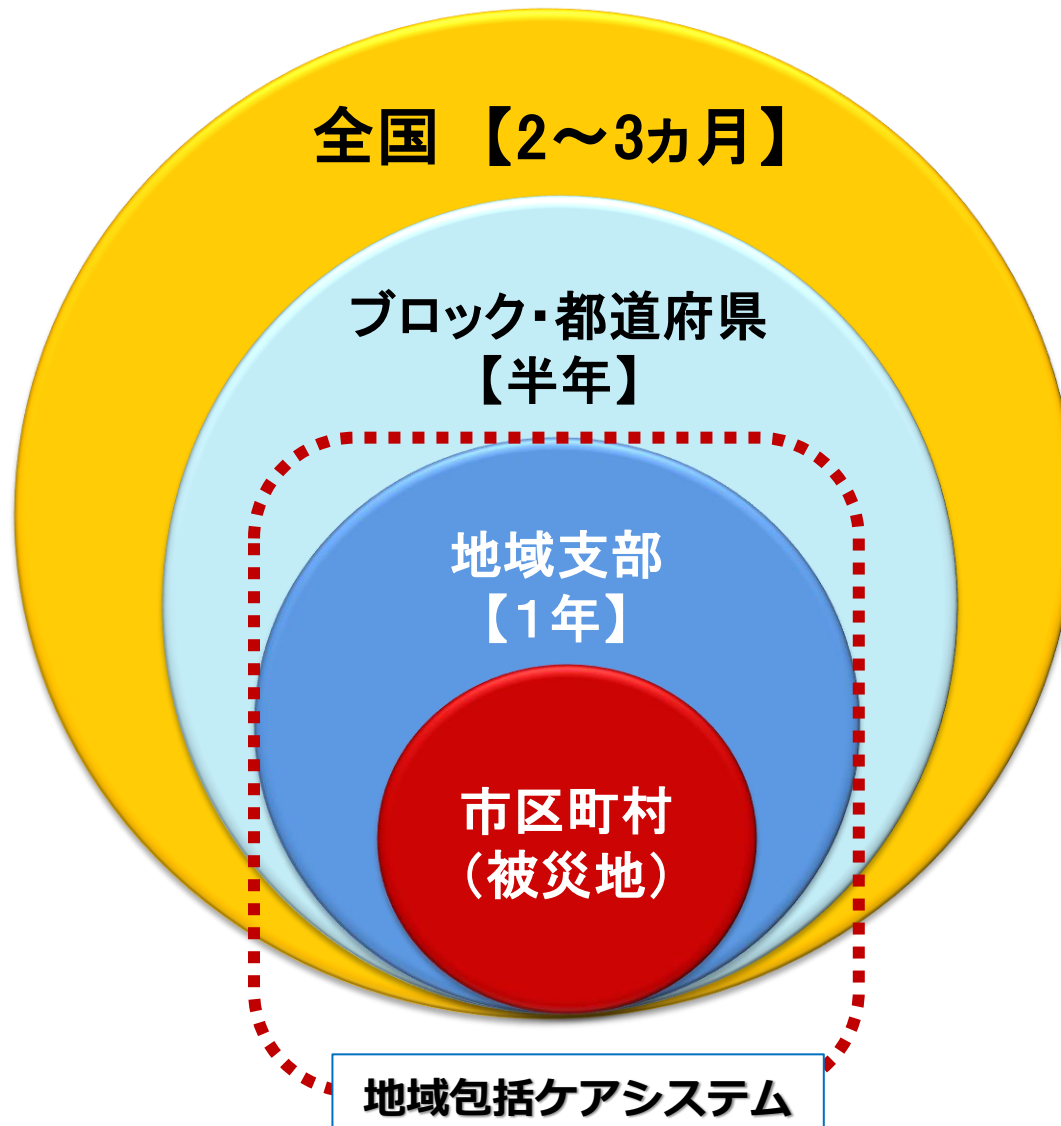
日本介護支援専門員協会の組織図



協会の災害支援体制（イメージ図）



協会の災害支援体制



熊本地震支援活動(平成28年4月～6月)

◆居宅介護支援事業所への 説明会 **2回** (御船町、益城町) ※厚生労働省通知の解釈 (読み解き)、意見交換



＜御船町の説明会（鷺見前会長）＞

◆県庁や関係諸団体との会合 **12回**



＜県庁主催の多職種連携会議＞



＜熊本市の包括支援センター所長会議＞

熊本地震支援(平成28年4月～6月)

◆地域包括支援センターの業務支援

※地域全戸訪問、避難所巡回など

実態把握 11,780件

(熊本市、益城町、西原村、嘉島町、御船町)



◆保険者事業活動支援

認定調査 27件

(南阿蘇村、御船町)



◆全国ボランティア

のべ 825名

＜塩崎厚生労働大臣(当時)に活動状況報告・5/22＞

<地域包括支援センター業務の支援(被災地アセスメント)：熊本県益城町>



西日本豪雨災害支援(平成30年7月～8月)



■ 実態把握

広島県 1,820件

岡山県 3,702件

■ 全国ボランティア

のべ 524名

北海道胆振東部地震(平成30年9月)



台風19号(令和元年)

北関東からは介護支援専門員の要請あり
当協会と、連携、厚生労働省へ状況報告

長野県

- 避難所巡回
- 災害後の介護給付管理について説明会
- 介護相談

災害支援ケアマネジャーの養成

- 大規模災害の発生時、**全国規模での被災地支援**を行う際に活動の中心的役割（コーディネーター役）を担う。
- 平時には、**都道府県支部**における防災減災活動の中核的役割を担う。
 - ⇒ 支部に**災害対策委員会**等を組織する。
 - ⇒ 「**災害支援リーダー**」を養成する。
 - ⇒ 「**災害対策机上訓練**」を実施する。

災害対策机上訓練の実施

地震など大規模な災害が発生した状況をシミュレーション。
介護施設や地域包括支援センター、在宅介護事業所等がお互いに連携しながら、高齢者支援・地域復興をめざすプロセスを疑似体験する。⇒ 平常時からの地域包括ケアの大切さが分かる

全国で実施中



災害対応マニュアルの編集発行

2012年8月以来の
改訂版発行！

災害対応マニュアル 第4版

主な内容（目次抜粋）

災害支援活動の基本的な考え方

介護支援専門員（事業所単位）

平常時から準備しておくこと

災害時リスク・アセスメントシート（課題・対応策整理票）／ 災害時利用者一覧表

災害時情報提供書

居宅介護支援事業所版 災害対応マニュアル（サンプル）

発災当日～3日間（応急期）

発災4日目～1か月（応急期～復旧期）

発災1か月～2,3年（復旧～復興へ）

災害時下でのケアマネジメントの課題

災害に対する居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員としての役割

地域包括支援センターとしての災害対応について

地域支部（地域の介護支援専門員組織）・

都道府県支部（都道府県の介護支援専門員組織）

日本介護支援専門員協会

資料編 災害の特徴と介護支援専門員に求められる対応

熊本地震の日本介護支援専門員協会の主な対応

東日本大震災からの日本介護支援専門員協会の主な対応

他団体との連携

日本介護支援専門員協会 災害支援要領

災害対応マニュアル

第4版



一般社団法人
日本介護支援専門員協会
JCMA Japan Care Manager Association

居宅サービス計画書（１）

第1表

居宅サービス計画書（１）

作成年月日

○年○月○日

初回 ・ 紹介 ・ 継続

認定済 ・ 申請中

利用者名 介護 花子 殿 生年月日 年 10 月 12 日 住所 東京都千代田区神田小川町

居宅サービス計画作成者氏名 介護 太郎

居宅介護支援事業者・事業所名及び所在地 みどり居宅介護支援事業所

居宅サービス計画作成(変更)日 ○ 年 ○ 月 ○ 日 初回居宅サービス計画作成日 ○ 年 ○ 月 ○ 日

認定日 ○ 年 ○ 月 ○ 日 認定の有効期間 ○ 年 ○ 月 ○ 日 ~ ○ 年 ○ 月 ○ 日

要介護状態区分	要支援	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
---------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

利用者及び家族の
生活に対する意向

本人：息子たちに心配をかけないようにしたい。近所に知り合いがいないので、一人での時が心配になる。
「川柳や俳句の会にこれからも参加したい。お風呂に入ると体の痛みもとれて生き返ります。」と話す。
長男：入浴の世話や日中など私の不在時の介護や安全への配慮をお願いしたい。できるだけ外に出て、楽しみを作りたい。
※地震等、災害発生時への不安が大きい、災害が起こった場合には、本人が安全に避難が出来るようにしておきたい。

介護認定審査会の
意見及びサービスの
種類の指定

総合的な援助の
方針

少しずつこちらの生活に慣れてきているようです。「長男のところにきて本当によかった」と思っているように
ご近所とのつながりや地域の社会資源を活用しながら、安心してこの町で生き生きと暮らしていけるようにしていきます。
※地震等の災害に備え自宅の安全確保及び、発災時には安全な場所へ迅速に避難が出来るよう、近隣住民を始め地域の関係者も含め関係機関と必要な対応策について検討していきましょう
緊急連絡先：長男 090-XXXX-XXXX 次男 03-XXXX-XXXX
主治医 03-XXXX-XXXX

生活援助中心型の
算 定 理 由

1. 一人暮らし 2. 家族等が障害、疾病等 3. その他（ ）

居宅サービス計画について説明を受け、内容に同意し交付を受けました。

説明・同意日

年 月 日

利用者同意欄

印

災害時リスク・アセスメントシート

災害時リスク・アセスメントシート(課題・対応策整理票)

作成日 : 年 月 日

作成者所属 : _____

作成者氏名 : _____

利用者のライフラインが止まる、避難が必要になるなどの大規模災害時にどのような課題を検討し、どのように対応策を考えるのかを整理するためのシートです。また発災時に優先的に避難支援を行っていく利用者の一覧表を作成する際に参考となるように作成してあります。

と予想される場合は口の箇所にし点を入れましょう

避難所生活、停電時など予想される課題

避難所の暮らしや福祉避難所の様子など、日本介護支援専門員協会の「災害対応マニュアル」をよく読んでイメージできるようにしておきましょう。

予想される課題を事前に関係者と検討しておきましょう

関係者と検討した大規模災害時の対策を記載する
優先的に安全確認が必要と判断した場合は優先順位にし点を入れましょう

医療機関や難病担当の保健所の方でも災害時対応の検討をすでに行っていることもあります。事前に対策を共有しておきましょう。

医療依存度の高い方は、一刻も早い避難や対応が必要と考えられます。特別な医療や医療機器の使用を一覧表の優先順位や特記に記入しておきましょう。

※ 医療機関や薬局、難病担当の保健所、医療機器・福祉用具業者などでも防災マニュアルなど災害時対策の検討をすでに行っていることもあります。本人や介護者と共に、事前に関係者と話し合っておきましょう。

優先
順位
①

※優先順位にチェック(し点)が入った場合は別紙一覧表に反映させます

関係者と検討した大規模災害時の対策を記載する
課題が残る場合は優先順位にし点を入れましょう

住宅や周辺環境に課題が残る場合は災害時利用者一覧表の優先順位に反映させましょう。

市区町村の災害時の危機管理における補助制度を確認しておきましょう。

関係者と
検討して
おきましょう

※ 住居所有者や本人、家族の意向を確認し、行政の防災や建築関係者から自宅の耐震や転倒家具防止、受けられる補助、避難経路などの必要なアドバイスを受けられるようにしましょう。

優先
順位
②

項目	課題の整理	危険 チェック
a. 医療や介護の状況	特別な医療 ☐ 点滴の管理 ☐ 中心静脈栄養 ☐ 透析 ☐ ストーマ・カテーテルの管理 ☐ 気管切開の処置 ☐ 疼痛の管理 ☐ 経管栄養 ☐ じょくそうの処置 ☐ その他()	☐
	電源使用の医療機器 ☐ レスピレーター(人工呼吸器) ☐ 酸素療法 ☐ 吸引器 ☐ その他()	☐
	内服・衛生用品 欠かせない医薬品や衛生用品がある	☐
	電源使用の福祉用具 ☐ 電動ベット ☐ エアマット ☐ 昇降機 ☐ その他()	☐

項目	課題の整理	危険 チェック
b. 住居・周辺環境	家屋が古い(昭和56年以前)、家が傾いている、地盤が弱いなど震災時に倒壊が心配される ※ 別紙「誰でもできる我が家の耐震診断」を参照	☐
	震災時に家具等が転倒する危険がある	☐
	津波や水害やがけ崩れ、液状化等の危険が考えられる ※ 対象地域のハザードマップを確認しておきましょう	☐
	必要な自宅備蓄品や非常持出品(保険証・常備薬、お薬手帳など)の準備が揃っていない	☐
	避難ルートに危険箇所(がけ崩れ、水害、ブロック塀崩壊の危険など)がある	☐

阪神淡路大震災では、犠牲者の8割以上の方が建物の崩壊や家具の転倒、その後の火災等により亡くなっているとされています。1981年(昭和56年)以前に建てられた家の多くが全壊または半壊したという報告があります。

※ 無料耐震診断や耐震補強の助成金、転倒防止器具の取付費補助、ブロック塀の撤去費の補助制度などを確認しておきましょう。

災害時利用者一覧表（安否確認優先順位）

災害時利用者一覧表（安否確認優先順位）

事業所名 みどり居宅

※ 優先順位と想定される避難場所の項目は災害時アセスメントシートとリンクさせます

作成日 年 月 日

No	優先順位(※)			地域区分	氏名	住所	想定される避難場所(※)		特記	担当ケアマネジャー	安否確認できた日
	①医療や介護	②環境	③避難				避難所・福祉	介護・医療機関			
1	人工呼吸器	レ		△△地区	佐藤○男	〇〇市〇〇123-1(〇〇自治会)		〇〇病院	高齢世帯、妻は要支援者 ALS、ストレッチャー移動、胃ろう、吸引		
2	経管栄養・吸引	レ	レ	△△地区					高齢世帯、転倒家具危険 ストレッチャー移動、胃ろう、吸引		
3	経管栄養・褥瘡	レ		△△地区					長男家族と同居 ストレッチャー移動、胃ろう、褥瘡あり		
4	経管栄養	レ		〇〇地区					長女と同居 ストレッチャー移動、胃ろう		
5	人工透析	レ	レ	〇〇地区					高齢世帯、妻は精神疾患、古い家屋・転倒家具 車いす使用、透析(月・水・金)		
6	人工透析	レ		□□地区					高齢世帯 車いす使用、透析(火・木・土)		
7	在宅酸素	レ	レ	□□地区					独居、孤立傾向、古い家屋 在宅酸素3ℓ/分		
8	在宅酸素	レ		□□地区					独居、孤立傾向、古い民家 在宅酸素3ℓ/分		
9	認知症による混乱	レ	レ	△△地区					独居・孤立傾向、古い民家 中度の認知症		
10	認知症による混乱	レ	レ	△△地区					高齢者世帯、古い家屋 軽度の認知症		
11	認知症による混乱	レ		〇〇地区					長男と二人暮らし、長男は精神疾患がある 軽度の認知症		
12	認知症による混乱			〇〇地区					長男家族と同居 重度の認知症、避難先で馴染めない・混乱		
13	精神疾患による混乱			〇〇地区					独居 精神疾患、近所の知り合いがいれば安心		
14		レ	レ	〇〇地区	介護 花子	〇〇区△△1-11(△△自治会)	〇〇〇〇小学校 〇〇高齢者センター	〇〇特養 〇〇総合病院	長男と同居、長男帰宅困難、古い家屋 車いすで生活、投薬のみ忘れ	介護 太郎	
15											
16											
17											
18											